

3-10 伊豆沼・内沼よみがえれ在来生物プロジェクト事業

事業目的

ラムサール条約湿地である伊豆沼・内沼では、ブラックバスによる在来魚の捕食や、アメリカザリガニによる沈水植物の採食や切断により、在来生物の数が依然として少ないことから、多様な在来生物が生息・生育していた昭和50年代前半の自然環境を取り戻すことを目標に、在来生物を増やす取組を実施するとともに、その技術を普及させる取組を行います。

事業内容

平成29年度事業費 12,000千円

- 1 潜在能力開発・発揮
生息・生育状況調査、二枚貝等在来生物の増殖・移植
- 2 在来生物の増殖
在来魚産卵魚礁の設置、屋外適地での在来魚等の保存系統と増殖
- 3 外来生物の駆除
電気ショッカーボート等による外来生物の駆除、外来水生植物の除去、伊豆沼流域ため池の外来生物の駆除、電気ショッカーボートを利用した外来魚駆除技術の普及啓発

事業効果

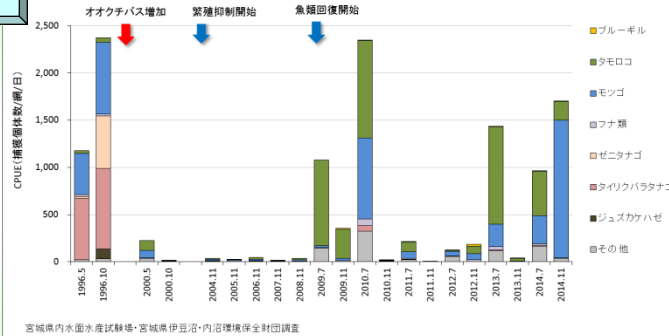
CO2削減効果	—
その他(取組数)	8 事業



電気ショッカーボートによる外来魚の駆除

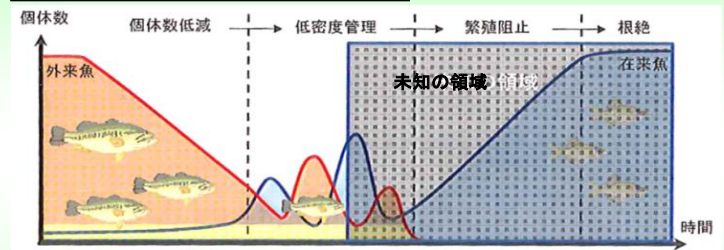
現状

定置網による在来魚類の捕獲数



これまでの在来魚増加対策は外来魚駆除が中心であり、在来魚の増加は自然まかせで、個体数は増減を繰り返しています。

税導入後のイメージ



外来魚個体数の低密度管理、繁殖阻止と併せて、在来魚の棲みやすい環境を整備し、在来魚の増加を目指します。